～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日　令和６年２月８日＜第２号＞
発行元　東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電　話　０３－５８０２－０３１８
ホームページ　https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/10jidai/yosei/index.html

●第３回教科等指導力養成講座

令和５年 12 月 24 日（日）東京都教職員研修センターにおいて、第３回教科等指導力養成講座を実施しました。大久保主任指導主事からは、「子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師として、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力を身に付けてほしい。」との話がありました。

本講座では全ての講座内容において小学校コースと特別支援学校コース混合で協議を行いながら学ぶことで、全ての教師が身に付けるべき資質・能力について理解を深めることができました。

【小学校コース・特別支援学校コース共通の講座】

○　「コーチングスキル」

「コーチングスキル」

児童・生徒の話を傾聴・承認し、適切な質問を投げ掛けることで主体的な学びを促し、能力や可能性を最大限に引き出すコーチングの手法について学びました。様々な塾生同士の演習を通して、「(自分の回答を）どのように感じたか」をフィードバックしてもらうことで、傾聴や承認、質問の具体的な行い方について理解を深めることができました。

○　「人権教育」

人権教育の基本的な考え方と、教職員に求められる人権感覚について学びました。児童・生徒一人一人の大切さを自覚しながら指導するための心構えや、児童虐待を早期発見し適切に対応するためのチェックリスト等について理解を深めることで、指定校での実践につなげる見通しをもつことができました。

○　「いじめ・不登校」

「いじめ・不登校」

「いじめ・不登校」について、都や国の資料から法令や現状を学び、事例を基に対応方法等について検討しました。一人１台の端末を活用して、塾生相互に意見交換することで、不登校のきっかけや支援方法について考えを深めることができました。

◆塾生の感想から

○　子供に教え込むだけではなく、オープンクエスチョンを用いて子供の中にある答えを導き出すことの大切さを知った。

○　コンフォートゾーンからラーニングゾーンへ抜け出せるように、新しい環境で積極的に挑戦し、失敗を恐れずに行動して行こうとすることが大切だと学んだ。

○　いじめを未然に防止するためには、わずかな変化や成長に気が付くことが大切であると学んだ。

○　小学校の現場で塾生のうちに感覚を磨きたい。人権やいじめについて、児童を理解するための感覚を磨くことを、今後常に意識する。

○　児童の人権意識を育むために、教師としての自身の言動に注意し、児童の手となることができるようにする。

○　本日の講座内容に共通する「教師として児童を知ろうとする姿勢」が大切であると学んだ。児童理解を深めることが、児童の充実した学校生活につながるのだと感じた。

○　小学校コースの人とも楽しく協議ができ、とても勉強になった。感覚や観点が異なる部分があるが、「教育」という大きな枠組みで考えるとどれも重要であることが分かった。

「人権教育」

●第４回教科等指導力養成講座

令和６年１月 21 日（日）東京都教職員研修センターにおいて、第４回教科等指導力養成講座を実施しました。大久保主任指導主事からは、「見通しをもって報告書作成や授業準備等に取組むように。」とのお話がありました。

【小学校コース・特別支援学校コース共通の講座】

○　「児童・生徒の主体的な学びを促す教師の関わり方」

幼稚園教育要領を基に、幼児教育における「遊び」や「環境構成」等の考え方について学びました。「どろだんご」を作る遊びを通して、友達とのコミュニケーションや表現の力が育まれていること等、多くの塾生が新たな気付きにうなずきを繰り返していました。さらに、「ラウンドチェーン」など日常的に使える「遊び」を体験し、指定校での児童との関わり方の引き出しを増やすことができました。

○　「生活指導」

事例を基に、認めることと褒めることの違いを意識しながら、児童・生徒に掛ける言葉について協議を行いました。児童・生徒に対して肯定的な関わりを行うためには「言葉の向こう側にあるものへの理解」が重要であるという講師の言葉を受け、塾生は生活指導における児童・生徒理解の大切さを改めて実感していました。

○　「発達障害・小学校の特別支援教育」

学習障害や自閉症等、発達障害の特性について理解を深めました。学習面や行動面における気になる言動に注目し、ユニバーサルデザインの視点を活用した授業の工夫を知り、指定校での授業実践や児童・生徒との関わりを見直すきっかけとすることができました。

【小学校コースの講座】

○　「国語」

事前に準備した板書計画を持ち寄り、第２学年「たんぽぽのちえ」の授業構成について考えました。グループで完成させた板書計画を基に模擬授業を行いながら、発問や児童に対する言葉掛け等について具体的に考えることができました。

【特別支援学校コースの講座】

○　「自立活動」

自立活動と合理的配慮との関連、実態把握から指導内容を決定するまでの流れ等、自立活動の概要について理解を深めました。自立活動の６区分 27 項目は網羅的に実施するのではなく児童・生徒に合わせて指導内容を設定するため、生じている困難を多面的に見取る視点の大切さを実感していました。

◆塾生の感想から

○　幼小連携について、初めて深く学んだためとても勉強になった。環境や遊びは小学校の学級経営においても、つながることが多いと思ったのでより知識を深めていきたいと思った。

○　生活指導で、児童生徒理解から始まり児童・生徒理解に終わりはないという言葉が印象的だった。

○　障害の有無だけで判断せず、支援が必要な場合は、個々の実態に合わせて支援方法を考えること、どのような支援をしたら本人のためになるのかを保護者や本人と考えることが大切であると学んだ。

○　国語では、「流れに沿った板書計画」の大切さを学んだ。子供にとって見やすい字で、分かりやすい板書を心掛けていきたい。

○　自立活動はまずは実態把握が重要である。障害があると、課題が目につきやすいが、できることや得意なことを見付ける。

「児童・生徒の主体的な学びを促す関わり方」

「生活指導」

「発達障害・小学校の特別支援教育」

「国語」

「自立活動」